あんどうとしひろ

安藤利博

議会報告

第３号
令和４年１月

発行人：安藤利博
〒709-0721 赤磐市桜が丘東 4-4-695
TEL・FAX 086-995-3714
携帯番号 090-7137-6605
E-mail qqjiteki5963@gmail.com

（議会中継） （LINE）

令和3年12月 赤磐市議会定例会より

学校現場におけるいじめ防止対策

昨年は「いじめ防止対策推進法」制定のきっかけになった、大津の中学 2 年生の自殺から 10 年目に当たります。その父親が「法律が教員に浸透せず、いじめ認知の出発点となる定義も理解されていない」と述べられています（山陽新聞。R3.10. 9）。

また、文部科学省が、「自殺や不登校につながるいじめ重大事態の調査で、指針に沿わない事例が相次いでいる」として、教育委員会へ指針の徹底を通達、との記事がありました（山陽新聞。R3.11. 23）。

赤磐の現状もこの通りで、令和元年度の中学校卒業生がいじめにより不登校重大事態になった事例について、再発防止のために事実認定、対応検証を行うよう、6 月議会、9 月議会に続いて要請しました。

この事例の対応を見ても、赤磐の学校現場にも法律の趣旨が浸透していない。そこで、教師の再教育をどのように行うのかを、具体的に示すよう重ねて質しました。

これに対して市長から「再度の確認と、具体的で継続的な研修が必要」との答弁がありました。

教育長からは「全ての児童・生徒にいじめの可能性があることを前提とした対応を行う」、「管理職研修でいじめ防止関連の法律やガイドラインに沿った対応について県教委から指導を受け、研修を深める」、「組織的な対応を怠り、不十分な点もあった。しっかりと子供に向き合い、保護者との連携を深める体制を構築していく」との答弁がありました。

今後、いじめ不登校に苦しむ生徒を一人も出さないために、この通り実行されるよう注視します。

地区敬老会助成金の再検討を

赤磐市では財政難といいながら、毎年 75 歳以上の人数×2千円を各地区町内会に敬老会助成金として配布しています。

敬老会助成といいながら、町内会長に名簿も渡されており、各人に 2 千円を配っている地区がほとんどです。敬老会行事を行っている地域も、地区の負担で行っているのが実態です。

今年の予算には約 1600 万円が計上されています。財源に余裕がある時なら別ですが、今の赤磐市に、毎年約 8 千人（赤磐市の人口の約 1/5）に 2 千円、総額 1600 万円を配る必要があるでしょうか？

100 歳の方には市長がお祝い訪問をされています。

これに倣い、祝い金は毎年でなく、例えば 80 歳の方だけにしては？ 残りはもっと有効な事業にあてる。

1600 万円があればこんなこともできます。
- 老人クラブ助成金3倍増：870 万円－＞2400 万円
- 福祉タクシー券 4.5 倍：月1回利用－＞週1回利用（年間 24 枚ですが、105 枚支給可能な計算に）
- 誕生祝い（約300人）、小学校入学祝い（約 400 人）に 2 万円支給が可能（「子育てするなら赤磐」）

この事業の根拠法は赤磐市規則ですから、条例とは違い議会の承認は不要です。市長判断でできます（もちろん地区の了解は必要ですが）。

行財政改革のために、市長のリーダーシップを発揮して再検討を、と質しました。

市長からは、地域の方々と協議しながら、より良い改革を進めていく、との答弁がありました。

この程度のことは、すぐにでも実行してほしいです。

高齢者の移動手段確保

高齢者の自動車事故が後を絶ちません。免許証返納が進まないのは、返納した途端に日常生活に支障が出るためです。

マイカー時代の行政に求められる公共交通は、不特定多数を対象とした市民バスではなく、移動手段を無くした高齢者への支援です。それもタイムリーにドア・ツー・ドアで目的地まで送れる移動手段です。定路線・定時刻のバスではこのニーズには対応できません。

山陽新聞には「利便性向上へ議論加速を（R2.12.1）」、「乗車率アップに苦心（R3.2.11））」とあります。でも答があれば既に実行されているはずです。無い答を求めても問題は解決できません。

今の市民バスには多くの問題があります。誰もが気付いていても言い出せないのが実情です。

問題１　実利用者数不明

延べ利用者数は公表されているが(15,858　人)実際に利用している人数は把握していない。

問題２　費用対効果を度外視

事業費 3,800 万円に対し、運行収入は 280 万円。利用者負担率は 7.4％。利用者に対して事業費（運行経費）が大き過ぎる（R元年度）。

問題３　公平性に欠ける

そもそもバス停まで歩けない人は利用不可能。週に 2 日運行地域と、5 日、6 日の地域がある。1 日の運行本数も、2 便、3 便、4 便、6 便と大きな地域差がある。

［ ほとんど誰も乗っていない市民バス ］

財政負担を抑えて、高齢者の移動ニーズに応えるには、市民バスだけでは無理があり、柔軟に対応できるボランティア組織を作るのが一番の解決策です。

唐突に思われるかも知れませんが、赤磐市では既にボランティアで対応している地区等があります。

☆西一たすけあい隊（桜が丘西 1 丁目）
　買物支援、病院送迎等
☆東 4 生活支援ネット（桜が丘東 4 丁目）
　病院送迎、粗大ゴミ運搬等
☆通所付添サポーター（赤磐市介護保険課）
　ハートフル太陽（熊山）への入浴送迎

その他にも見渡せば候補者は大勢おられます。

☆支え合い地域作りフォーラム参加者　約 140 人
☆いきいき百歳体操世話人　87 会場
☆福祉推進員　121 人
☆シルバー人材センター会員　300 人超

担当部局が市民バスは総合政策部、高齢者福祉は保健福祉部と縦割りになっている、との指摘に対して、総合政策部長からは「福祉施策との連携にも十分留意し、取組みを進める」との答弁がありました。

質問の最後に、赤磐市総合計画に触れて、計画にある通り高齢者が免許返納できる環境作り、ボランティアの組織化を進めるよう要請しました。

質問のために市民バスの推定実利用者人数や、高額な事業費等についてデータを準備していたが、今回は質問時間がなく、問題提起にとどまりました。

この問題はもはや避けては通れない、極めて大きな問題なので、改めて取り上げる予定です。

「第 2 次赤磐市総合計画」より
高齢ドライバーが安心して免許を返納できる環境を作り、自宅から目的地までの自家用車に替わるものの在り方等について、地域と行政が一緒になって検討を進めます。

安藤利博　議会報告会

安藤の議会での模様は「赤磐市議会だより」や、「議会報告」でお知らせしていますが、紙面の関係から要点だけです。

そこで、より詳しい内容をお聞きいただくと共に、皆さんからのご意見、ご要望をお伺いする機会として、議会報告会を計画しました。

寒い折ですが、ご都合が付けば是非ご参加下さい。

日　　時　　令和４年１月 30 日（日）　午前 10 時～12 時
場　　所　　赤磐市立中央公民館　視聴覚室